

法遍寺 から大切な 皆様へ

2019年12月1日

日蓮正宗 年間方針

勇躍前進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成

勇猛果敢の折伏

年間実践テーマ

① 勤行・唱題で折伏推進

誓願達成

罪障消滅

② 講中一結で御講参詣

異体同心の団結

折伏成就

③ 登山参詣で育成推進

心身浄化

功德无量

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池 6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料


2019年11月24日の第3回支部総登山会の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

私たちは、生命に無明という根本の煩惱を持つゆえに、多くの苦しみを感ずります。これは過去の謗法罪によるものですが、その本質を尋ねると「悪逆と愚痴」が、その大半を占めます。大聖人ご在世の当時も今も、これら無明から出ずる生命は、ものの本質をすべて逆にとらえてしまうのです。信・行・学にわたる信心を築く人には無明を破った「順善と明智」が与えられます。大聖人は熱原法難(弘安二年)の最中、信徒衆の柱であった若き南条殿に対し、「悪逆の徒を憎んではならぬ。むしろ善知識と受け止めなさい」(趣意 上野殿御返事・御書 1358~1361頁)と仰せになられ、逆縁の人々の本質を教えられた上で、慈悲と忍辱の心を自身の胸中から引き出すことが仏道であるとご教示です。そしてこの妙法への信心を人に勧めることが過去の精霊を救う道であると激励されたのでした。大切な人をこの信心に導きましょう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ

池田大作は平成5年9月7日のスピーチで、「信心の中にしか、本尊はないんです。本門戒壇、板御本尊、何だ、ただの物です。いちおうの機械です、幸福製造機だから」と発言しています。しかし、では何故、本尊を信仰の根本対境とし、今現在ニセ本尊を作成し拝ませているのでしょうか。かつて昭和40年発行の「観心本尊抄講義補訂版」で池田は、「この偉大なる大御本尊を、日蓮大聖人は、弘安二年十月十二日にご建立になり、(中略)、日蓮大聖人の仏法の骨髄は、富士大石寺に、脈々と伝えられて、今日に至っている」と語っています。大御本尊を離れて日蓮大聖人はなく、大御本尊を離れて衆生の成仏はないとする過去の教義はどこに行ってしまったのでしょうか。都合で言動が異なる教団に大聖人の魂は住まないことを知るべきです。

③ 日蓮正宗の教義を知らない方へ 〈なぜ「神だな」や「神札」をはずさせるのか〉

日本人の多くに、神だなや神札に何らかの力がこもっており、その力によって守られるという概念があります。日蓮大聖人は仰せです。「諸天善神は、妙法を法味として威力を増し、民衆を守護する力を増していく。しかし、この末法の世の中においては正法を信仰する者が少なく、正法に背いている者が多いために諸天善神は法味に飢えて、社を捨てて天上に昇ってしまっている。神社には、これよかれと悪鬼や魔神が棲み、災難を引き起こす。正法に反する人がこれを拝むと、悪鬼らは栄養を増し、さらなる災難を引き起こす」(立正安国論)と。拝まなくても神棚があることで、そこに悪鬼魔神が棲むのです。これが不幸の根本原因となり、魔の力ともなるのです。この怖さをまず知ってください。そして日蓮正宗の信仰による幸福原理を知ってください。